

試験研究成果普及情報

| | | | |
|---|-----|----|----|
| 部門 | 花植木 | 対象 | 普及 |
| 課題名：バラのロックウール栽培における各種仕立て法の特性比較 | | | |
| [要約] 従来の切り上げ法と比較して、アーチング法は茎長が長く充実した切り花が得られるが、切り花本数は減少する。ハイラック法および誠和法は中庸で高品質の切り花が多く得られる。特にハイラック法は品種によっては切り上げ法以上の切り花本数が期待出来、有望な仕立て法と思われる。 | | | |
| キーワード (専門区分) 栽培 (研究対象) 切り花類 1 - バラ (フリーキーワード) バラ ロックウール 仕立て法 | | | |
| 実施機関名 (主査) 暖地園芸試験場花き研究室 (協力機関) (実施期間) 1996年度～1999年度 | | | |

[目的及び背景]

ロックウール栽培の広がりにより、新しい仕立て法が考案されている。そこで、従来の切り上げ法を対照とし、アーチング法、ハイラック法、誠和法の3種類の仕立て法を比較し、切り花収量や切り花品質に及ぼす影響を検討した。

[成果内容]

1. アーチング法による切り花は、切り上げ法に比べて茎長が長く、切り花重も重くてボリュームのある反面、切り花本数は切り上げ法に比べ、極端に減少し、特に冬期の切り花本数が少なくなる傾向がみられた。採花位置が上がらない為、せん定が不要で、周年採花が可能であった。
2. ハイラック法による切り花は、茎長が60cm以上の切り花が大部分を占めた。切り花本数はローテローゼでは、切り上げ法に及ばなかったものの、ノブレスでは切り上げ法を上回った。この仕立て法も採花位置がほぼ一定の為に周年採花が可能で作業性も良かった。
3. 誠和法による切り花も60cm以上の切り花が多く得られたが、70cm以上となるとアーチング法やハイラック法に比べ少なかった。切り花本数は切り上げ法に比べ、2～3割程度少なかった。採花位置が上がっていく為、切り上げ法同様にせん定が必要とされ、夏期せん定を行った場合、7～8月はほとんど採花出来なかった。

[留意事項]

1. アーチング法、ハイラック法は特にハダニの防除を徹底する。
2. 軟弱枝や切り花に出来ない開花枝は折り曲げて、葉量の確保に努める。

[普及対象地域]

県下全域のロックウール栽培地

[行政上の措置]

なし

[普及状況]

[成果の概要]

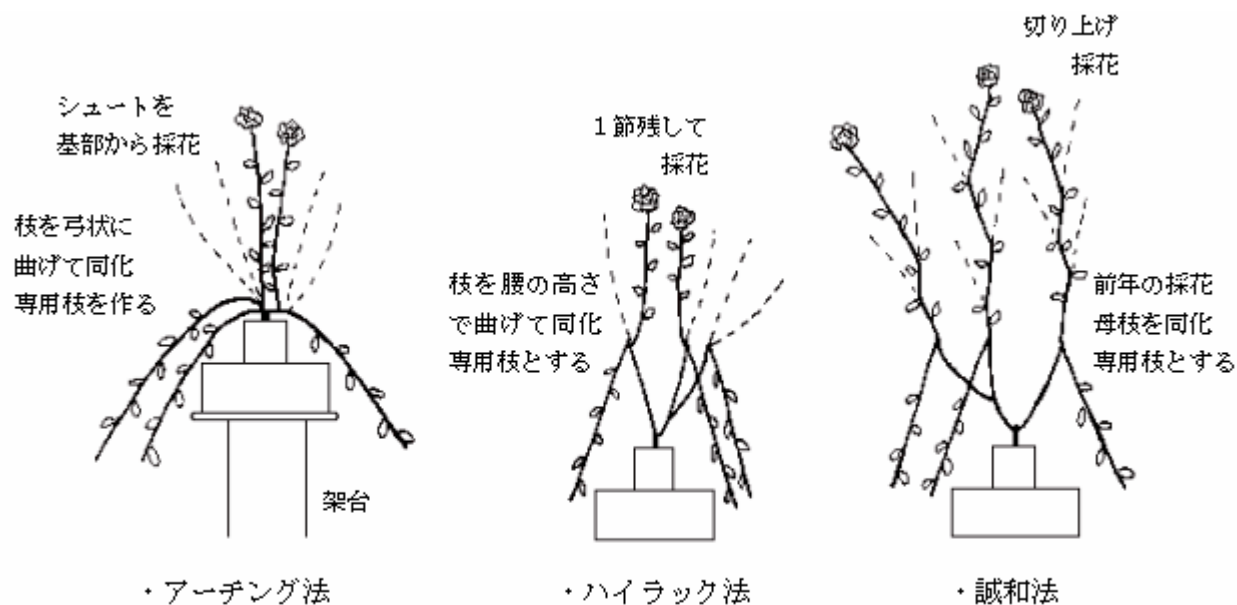


図1 各種仕立て方法の模式図

表1 1株当たりの切り花本数と切り花の総重量

| 処 理 区 | | 切 り 花 本 数 (本) | | | | | 切り花の 総重量 (g) |
|--------|-------|---------------|------|------|------|-------|--------------------|
| 品 種 | 仕立て法 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 合計 | |
| ローテローゼ | アーチング | 12.7 | 16.5 | 11.4 | 9.1 | 49.6 | 2,845 |
| | ハイラック | 19.6 | 33.8 | 31.8 | 24.7 | 109.9 | 3,850 |
| | 誠和 | 21.1 | 25.9 | 27.2 | 23.8 | 98.1 | 3,224 |
| | 切り上げ | 30.0 | 44.8 | 43.5 | 33.1 | 151.5 | 4,440 |
| ノブレス | アーチング | 14.6 | 16.7 | 15.4 | 11.4 | 58.1 | 3,141 |
| | ハイラック | 18.6 | 33.7 | 32.9 | 27.2 | 112.3 | 3,869 |
| | 誠和 | 18.5 | 23.8 | 24.2 | 20.3 | 86.7 | 3,362 |
| | 切り上げ | 22.2 | 33.8 | 33.3 | 21.8 | 111.1 | 3,544 |

給液濃度はEC値1.5~2.0mS/cm

加温は10月中旬～5月上旬まで最低夜温15℃

[発表及び関連文献]

1. 平成 9年度 花き試験研究成績概要集 [関東・東海編] 千葉県－50
2. 平成10年度 花き試験研究成績概要集 [関東・東海編] 千葉県－48
3. 平成11年度 花き試験研究成績概要集 [関東・東海編] 千葉県－26
4. 平成12年度 花き試験研究成績概要集 [関東・東海編] 千葉県－43